

新春
知事対談

スポーツの力

～とちぎから世界へ～

競技の魅力

知事 新年あけましておめでとうございます。本日のゲストはプロクライマーの榎崎智亜さん、車いすテニスプレイヤーの大谷桃子さんです。



栃木県知事 福田 富一

二人 よろしくお願ひします。
知事 早速お話を伺いますが、最近は何スポーツクライミングが大変人気ですよ。榎崎さんが始めたきっかけは何だったんですか？

榎崎 もともとやっていた器械体操をやめた時に、兄が通っていたクライミングジムについて行ったのがきっかけです。

知事 クライミングにはどんな魅力があるんですか？

榎崎 自由なところが僕は一番好きです。人によって登り方が違うことがすごく面白いですし、あとは登り切った時の達成感や壁を乗り越える感覚は楽しいです。

知事 腕の長さや体の大きさなど体格を考えると、外国人選手に比べて日本人の場合は不利なのではないかと思ひます。世界一になれたのは、どういう部分で優れているからだと思ひていますか？

榎崎 日本人は、指の強さやどれだけ握れるかという力、体をどれだけ繊細にコントロールできるかという部分が優れていると思ひています。僕の場合は、跳んだりする動きがすごく得意なので、ばねを使った動きが強みかなと思ひます。

知事 ちょっと手を見せてください。

榎崎 そんなにあれですけど…。

知事 そんなに変わらないね。これが世界一の手なんだ。握手をしてみよう。(握手をする)

知事 手全体ががっちりした感じがします。新年早々世界一の手を見せてもらいました。

続いて大谷さんは、どのような思ひで、車いすテニスを始められたのですか？

大谷 私は小学校からテニスをやっていたのですが、高校卒業後に車いすになり、一度テニスから離れたんです。大学に進学した後、車いすテニスの大会を見に行く機会があって、実際にプレーされているのを見て、自分もこの場に立ちたい、応援されるプレーをしたいと強く思ふようになって始めました。

知事 車いすテニスの魅力はどのようにあると思ひますか？

大谷 車いすテニスは他の障害者スポーツと比べて、クラス分けが少ないんです。同じクラスの中にも状態の良い選手もいれば状態の悪い選手もいて、その中で状態の悪い選手が状態の良い選手に勝つというのは魅力だと思ひます。

知事 本格的に始めてから3年で日本のトップクラスの選手として活躍されていますが、その活躍の原動力は何ですか？

大谷 そうですね。テニスが大好きというのが一番にあります。車いすテニスはもちろん、健常者の方と一緒にプレーをさせてもらうのも楽しくて、健常者の方とは、自分がうまくならないと相手にならない部分もあるので、モチベーションになっています。

東京2020大会に向けて

知事 いよいよ今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。榎崎さん、スポーツクライミングは、今回から正式種目になったわけですよ。どんな思ひを持っていますか？

榎崎 なると思ひていなかったのすごく驚きましたね。あとは、そのことが発表された2016年に、僕はワールドカップの年間チャンピオンと世界選手権で優勝をしたので、次にさらに大きい大会が来たなとモチベーションをもらえて、今は自信もありますし、本当に楽しみです。

知事 大谷さんはいかがですか？

大谷 こんなに身近になるなんて思ひていませんでした。まず出場できるのが一番ですし、出場するからには、メダルも目指したいと強く思ふようになりました。

知事 栃木県としても、東京2020大会に向けてさまざまな取り組みを行っています。その一環として、ハンガリーを相手国としてホストタウンの登録を国から受けました。事前キャンプの受け入れや、地元の小・中学生向けに、ハンガリー選手やコーチによるスポーツ教室なども行っていて、県民の皆さんとの交流もたくさん行っています。



ハンガリー陸上競技協会の競歩選手と宇都宮市立陽光小学校児童が交流

お二人とも、試合で海外に行くことが多いと思ひますが、現地の人たちや海外の選手たちとはどんな交流がありますか？

大谷 3年前、イタリアでの国別対抗戦の時にある国の選手3人が、誰も日常用の車いすに乗っていませんでした。松葉杖で生活をしていて、3人いるのに競技用の車いすも2台しかないという状況でした。お金が無くて、車いすを買うこ

とができず、競技用の車いすもみんな2台ということを知り、自分は日常用の車いすもありますし、競技用の車いすも持っていることがすごい恵まれている環境だと実感することができました。

知事 そういう人たちを見て、自分自身の生活を見つめ直すきっかけにもなると。良い話をお正月からお聞きすることができました。また、海外との文化の違いなどで、驚いたことなどありますか？

大谷 海外に行くたびに日本はやはりバリアフリーが進んでいると感じる一方、海外はバリアフリーじゃない場所で手伝ってくれる人がたくさんいらっやして、「心のバリアフリー」が進んでいるんじゃないかなと思ひました。



大谷 桃子さん

女子車いすテニス選手。栃木市出身。昨年5月に開催された国別対抗戦「ワールドチームカップ」に日本代表として出場、銀メダルを獲得

知事 そういう言葉を身にしみて感じて、「心のバリアフリー」を行政としても一層推進しなければと改めて思ひました。榎崎さんは現地の歓迎や応援で印象に残っている事はありますか？

榎崎 クライミング競技では、日本人は応援するときに「ガンバ」って言うんですけど、海外の人も「GAMBA」って言って応援してくれます。あとは、新しいムーブ*を僕が発見したんですけど、それにみんなが名前をつけて呼んでくれて。「TOMOA SKIP」っていうんですけど。

知事 それが世界に広まっているということで、日本人としてうれしく思ひます。やはりそういう声は力になりますよね。

榎崎 ギリギリのときに背中を押してくれるのは、いつも応援だなと思ひますね。

知事 昨年、ラグビーのワールドカップで各国のキャンプ地となった地域の人たちによる心のこもった交流や応援などが、日本の「おもてなし」として世界中から賞賛されましたよね。私たちも、東京2020大会に向けて、来県される選手の皆さんや海外からの観光客の皆さんなどにも、心のこもった温かい「おもてなし」をして大会を盛り上げていきたいですね。
*クライミングの動作のこと

ジュニア世代へメッセージ

知事 さて、栃木県では、2年後の2022年に第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」と、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催が決定

しています。

2年後に向けて、大会時に選手となる小・中・高校生といったジュニア層の皆さんも、日々練習に励んでいます。お二人は、どういうお子さんだったんですか？

榎崎 運動が大好きで、もちろん木登りもたくさんしていました。その分けがは多かったんですけど…。



榎崎 智亜さん

プロクライマー。宇都宮市出身。昨年のクライミング世界選手権で優勝(男子ボルダリング、複合種目)。東京2020大会への出場内定

大谷 私は陸上もやっていたので、そのあとにテニスをしていました。とにかく外で体を動かすことが好きでした。

知事 今、世界を舞台に活躍をされているお二人から将来を夢見るジュニア世代の皆さんへ、メッセージをお願いします。
榎崎 楽しい、もっと強くなりたいという、始めた時にあったももとの気持ちを思い出して、どんなときも楽しんでやってほしいと思ひます。

大谷 将来の夢がもともと別にあって、そのあとに車いすになりましたが、車いすテニス選手として頑張るっていう新しい夢を見つけたおかげで頑張ることができています。自分の好きなことを一つも見つけて、それに向けて頑張るってほしいと思ひます。

知事 目標に向けて頑張る子どもたちにとって、お二人の言葉は大きな励みになったと思ひます。ジュニア世代の選手の活躍を楽しみにしています。

スポーツの力

知事 これまでお話を伺ひしてきて、お二人とも、スポーツが大好きだということを知りました。スポーツの魅力とは何だと思ひますか？

榎崎 自分自身の成長を実感できる場所ですね。体だけでなく、人間的にもどんどん成長しているのを感じ、県の代表として、国の代表として大会に出るようになって、意識が変わっていきました。いろんな人との出会いもあって、すごく豊かになったなと思ひます。気持ちのコントロールを自分自身でうまくできるようになるなど、どんな状況でもすべて受け入れられるようになってきました。

知事 その場その場で、ベストな対応ができるようになって、良い成績に結びつくということですね。大谷さんは？

大谷 車いすテニスに出会って、前向き